

# 福岡大学学科履修規程

## 第1章 総 則

第1条 卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

## 第2章 科目の履修

第2条 (抜粋)

### 令和2年度入学生(20台)

10 スポーツ科学部(スポーツ科学科・健康運動科学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

(1) 共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	20単位以上	
		社会科学……………4単位以上		
		自然科学……………4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
(1) 共通教育科目	外国語科目	第1外国語……………8単位	合計32単位以上	
		第2外国語		
		保健体育科目……………4単位		
(1) 共通教育科目	単位互換科目			
(2) 専門教育科目	スポーツ科学科	必修科目……………34単位	計82単位以上	総計124単位以上
		選択必修科目……………6単位以上		
		選択科目……………42単位以上		
	健康運動科学科	必修科目……………40単位	計82単位以上	
		選択必修科目……………2単位以上		
		選択科目……………40単位以上		
(3) 自由履修単位		第2外国語	計10単位以上	
		専門教育科目		

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

**平成31年度入学生 (19台)**

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	} 20単位以上	} 合計32単位以上			
		社会科学……………4単位以上					
		自然科学……………4単位以上					
		総合系列科目 学修基盤科目					
外国語科目	第1外国語……………8単位	} 8単位	} 総計124単位以上				
	第2外国語						
保健体育科目……………4単位	} 4単位	} 総計124単位以上					
単位互換科目							
(2)専門教育科目							
スポーツ科学科	必修科目……………34単位				} 計82単位以上	} 総計124単位以上	
	選択必修科目……………6単位以上						
	選択科目……………42単位以上						
健康運動科学科	必修科目……………40単位			} 計82単位以上	} 総計124単位以上		
	選択必修科目……………2単位以上						
	選択科目……………40単位以上						
(3)自由履修単位							
	第2外国語	} ……計10単位以上	} 総計124単位以上				
	専門教育科目						

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
 4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

**平成30年度入学生 (18台)**

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	} 20単位以上	} 合計32単位以上			
		社会科学……………4単位以上					
		自然科学……………4単位以上					
		総合系列科目 学修基盤科目					
外国語科目	第1外国語……………8単位	} 8単位	} 総計124単位以上				
	第2外国語						
保健体育科目……………4単位	} 4単位	} 総計124単位以上					
単位互換科目							
(2)専門教育科目							
スポーツ科学科	必修科目……………34単位				} 計82単位以上	} 総計124単位以上	
	選択必修科目……………6単位以上						
	選択科目……………42単位以上						
健康運動科学科	必修科目……………40単位			} 計82単位以上	} 総計124単位以上		
	選択必修科目……………2単位以上						
	選択科目……………40単位以上						
(3)自由履修単位							
	第2外国語	} ……計10単位以上	} 総計124単位以上				
	専門教育科目						

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
 4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

## 平成29年度入学生 (17台)

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	} 20単位以上	}	合計32単位以上
		社会科学……………4単位以上			
		自然科学……………4単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語……………8単位	}	}	}	}
	第2外国語				
	保健体育科目……………4単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
スポーツ科学科	必修科目……………34単位	}	} 計82単位以上	}	} 総計124単位以上
	選択必修科目……………6単位以上				
	選択科目……………42単位以上				
健康運動科学科	必修科目……………40単位	}	} 計82単位以上	}	}
	選択必修科目……………2単位以上				
	選択科目……………40単位以上				
(3)自由履修単位					
	第2外国語	}	}	}	} 計10単位以上
	専門教育科目				

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

## 平成28年度入学生 (16台)

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	} 20単位以上	}	合計32単位以上
		社会科学……………4単位以上			
		自然科学……………4単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語……………8単位	}	}	}	}
	第2外国語				
	保健体育科目……………4単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
スポーツ科学科	必修科目……………34単位	}	} 計82単位以上	}	} 総計124単位以上
	選択必修科目……………6単位以上				
	選択科目……………42単位以上				
健康運動科学科	必修科目……………40単位	}	} 計82単位以上	}	}
	選択必修科目……………2単位以上				
	選択科目……………40単位以上				
(3)自由履修単位					
	第2外国語	}	}	}	} 計10単位以上
	専門教育科目				

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

平成27年度入学生 (15台)

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4 単位以上	} 20 単位以上	}	合計32単位以上
		社会科学…………… 4 単位以上			
		自然科学…………… 4 単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8 単位	}	}	}	}
	第2外国語				
	保健体育科目…………… 4 単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
スポーツ科学科	必修科目…………… 34 単位	}	} 計82単位以上	}	} 総計124単位以上
	選択必修科目…………… 6 単位以上				
	選択科目…………… 42 単位以上				
健康運動科学科	必修科目…………… 40 単位	}	} 計82単位以上	}	}
	選択必修科目…………… 2 単位以上				
	選択科目…………… 40 単位以上				
(3)自由履修単位					
	第2外国語				} 計10単位以上
	専門教育科目				

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
 4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

平成26年度入学生 (14台)

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4 単位以上	} 20 単位以上	}	合計32単位以上
		社会科学…………… 4 単位以上			
		自然科学…………… 4 単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8 単位	}	}	}	}
	第2外国語				
	保健体育科目…………… 4 単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
スポーツ科学科	必修科目…………… 34 単位	}	} 計82単位以上	}	} 総計124単位以上
	選択必修科目…………… 6 単位以上				
	選択科目…………… 42 単位以上				
健康運動科学科	必修科目…………… 40 単位	}	} 計82単位以上	}	}
	選択必修科目…………… 2 単位以上				
	選択科目…………… 40 単位以上				
(3)自由履修単位					
	第2外国語				} 計10単位以上
	専門教育科目				

- (注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
 4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。

平成25年度入学生 (13台)

10 スポーツ科学部 (スポーツ科学科・健康運動科学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。  
(学則第34条参照)

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4 単位以上	} 20 単位以上	}	合計32 単位以上
		社会科学…………… 4 単位以上			
		自然科学…………… 4 単位以上			
		総合系列科目			
(1)共通教育科目	外国語科目	第1 外国語…………… 8 単位	}	}	合計32 単位以上
		第2 外国語			
	保健体育科目…………… 4 単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
スポーツ科学科	必修科目…………… 34 単位	必修科目…………… 34 単位	} 計82 単位以上	}	総計124 単位以上
		選択必修科目…………… 6 単位以上			
		選択科目…………… 42 単位以上			
健康運動科学科	必修科目…………… 42 単位	必修科目…………… 42 単位	} 計82 単位以上	}	総計124 単位以上
		選択科目…………… 40 単位以上			
(3)自由履修単位					
		第2 外国語			
		専門教育科目			計10 単位以上

- (注) 1 第1 外国語の海外英語研修 2 単位及び第2 外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10 単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 各学科とも、選択必修科目において所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。  
 4 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124 単位のなかに算入しない。

**令和2年度入学生(20台)**

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。



- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
  - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。  
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。



- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

- 3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。  
(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。  
(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。  
(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。  
(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。  
(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

## 附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成31年度入学生 (19台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。



- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
  - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。



3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。  
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含

め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。



平成30年度入学生 (18台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。



- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
  - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。  
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科



目 4 単位、2 年次の選択科目のうち、物理分野から 4 単位以上、化学分野から 4 単位以上、生物分野から 4 単位以上、衛生分野から 2 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 2 単位以上を含め計 28 単位以上、合計 52 単位以上、総計 78 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 26 単位以上の修得をもって足りる。

- (3) 第 3 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次の必修科目 7 単位、3 年次の選択科目のうち、物理分野から 3 単位以上、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、衛生分野から 1 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 4 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 19 単位以上、合計 78 単位以上、総計 106 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (4) 第 4 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次の必修科目 12 単位、4 年次の選択科目のうち、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、薬理分野から 1 単位以上、薬剤分野から 1 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 9 単位以上、合計 99 単位以上、総計 127 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (5) 第 5 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次科目 21 単位以上、5 年次の必修科目 32 単位、計 131 単位以上、合計 159 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。

第 7 条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第 8 条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第 9 条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2 科目かつ 8 単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第 3 章 受 講

第 10 条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第 11 条 講義は、その開講期間によって、次の 5 種類とする。

- (1) 通年講義（1 年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第 12 条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が 10 人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第 13 条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第 14 条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は

20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。



平成29年度入学生 (17台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
- (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
- (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。



(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、



3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

(1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

(2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成28年度入学生 (16台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。

ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、2年以上在学し、次の各号に定める授業科目の単位を修得していなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
  - (2) フランス語学科の学生は、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- 第6条の2 法学部法律学科の学生は、法律特修プログラムを履修することができる。
- 2 法律特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。法律特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。



## VI. 諸 規 程

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
  - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
  - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
  - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
  - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
  - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
  - (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- 第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
- (2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
- (3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。

この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ、教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合。
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く）について、登録の変更、追加、削除をする場合。

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は、年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取止めることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。



平成27年度入学生 (15台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第1号又は第6条の4第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
  - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第2号・3号又は第6条の4第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
  - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第4号又は第6条の4第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。

第6条 人文学部ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、次に掲げる科目の単位を修得していなければ、以下の特定科目の登録を行うことはできない。

(1) ドイツ語学科の学科履修における条件

「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」及び各講読(3・4年次科目)を履修する者は、1年次の「ドイツ語ⅠA」(2単位)及び「ドイツ語ⅠB」(2単位)を修得していなければならない。

第6条の2 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科

目について64単位以上。

- (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
- (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の5 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
- (2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
- (3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の6 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については14単位、合計49単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、47単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列



科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の7 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単



位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

(1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

(2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

#### 附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

#### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の4、工学部は第5条と第6条の5、薬学部は第5条と第6条の7）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

## 平成26年度入学生 (14台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次38単位、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が78単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が118単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超え

てはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第1号又は第6条の4第2項第1号に該当する者は46単位まで履修することができる。

- (2) 物理科学科、化学科及び地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各54単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第2号・3号・4号又は第6条の4第2項第2号・3号・4号に該当する者は54単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として50単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次35単位、第4年次36単位、第5年次36単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。

第6条 人文学部ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、次に掲げる科目の単位を修得していなければ、以下の特定科目の登録を行うことはできない。

(1) ドイツ語学科の学科履修における条件

「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」及び各講読(3・4年次科目)を履修する者は、1年次の「ドイツ語ⅠA」(2単位)及び「ドイツ語ⅠB」(2単位)を修得していなければならない。

第6条の2 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次必修科目11単位並びに第2年次科目8単位を含む24単位以上。
- (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は第2年次までの選択必修実験科目の10単位以上を含み、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
- (4) 地球圏科学科の学生は、第2年次までの全実験科目8単位を含み、共通教育科目及び専門教育科目について70単位以上。



2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の単位を修得していなければ、以下の第4年次開講科目の登録をすることはできない。

(1) 応用数学科応用数学コースの学生は、第3年次までの必修専門教育科目25単位、第3年次の選択必修科目16単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。ただし、選択必修科目16単位のなかには、第2群科目6単位以上を含まなければならない。

社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、第3年次までの必修専門教育科目27単位、第3年次の選択必修科目12単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、第3年次までの必修とする全実験科目、物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を、また、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、第3年次までの必修とする全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は第3年次までの選択必修実験科目の12単位以上、第3年次の必修とする系別全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を、また、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は第3年次までの必修とする全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。

(4) 地球圏科学科の学生は、選択必修とする実験科目（A・B・C群のいずれかの科目群）の8単位及び第3年次までの外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。

第6条の5 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科、社会デザイン工学科は20単位まで、建築学科は18単位までとする。

第6条の6 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については14単位、合計49単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、47単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。



- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。
- (3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。
- (4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の7 薬学部の学生は、第1年次から第5年次のそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より10単位、第1外国語より2単位、単位互換科目を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次科目より17単位以上、合計35単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、合計18単位以上の修得を以って足りる。
- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、外国語科目より第1外国語6単位、単位互換科目を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、計48単位以上、合計74単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計26単位以上の修得を以って足りる。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、計74単位以上、合計102単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目25単位以上、計99単位以上、合計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目25単位以上、5年次科目34単位、計133単位以上、合計161単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。受講人員は20人を原則とする。

#### 附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

#### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の4、工学部は第5条と第6条の5、薬学部は第5条と第6条の7）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成25年度入学生 (13台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次38単位、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が78単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が118単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超え

てはならない。ただし、学科履修規程第6条の3第1項第1号又は第6条の3第2項第1号に該当する者は46単位まで履修することができる。

- (2) 物理科学科、化学科及び地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各54単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の3第1項第2号・3号・4号又は第6条の3第2項第2号・3号・4号に該当する者は54単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として50単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次35単位、第4年次36単位、第5年次36単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。

第6条 人文学部ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、次に掲げる科目の単位を修得していなければ、以下の特定科目の登録を行うことはできない。

(1) ドイツ語学科の学科履修における条件

「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」及び各講読(3・4年次科目)を履修する者は、1年次の「ドイツ語ⅠA」(2単位)及び「ドイツ語ⅠB」(2単位)を修得していなければならない。

第6条の2 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム(以下「プログラム」という。)を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次必修科目11単位並びに第2年次科目8単位を含む24単位以上。
  - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
  - (3) 化学科において、化学コースの学生は第2年次までの選択必修実験科目の10単位以上を含み、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
  - (4) 地球圏科学科の学生は、第2年次までの全実験科目8単位を含み、共通教育科目及び専門教育科目について70単位以上。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の単位を修得していなければ、以下の第4年次開講科目の登録をすることはできない。

(1) 応用数学科応用数学コースの学生は、第3年次までの必修専門教育科目25単位、第3年次の選択必修科目16単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。ただし、選択必修科目16単位のなかには、第2群科目6単位以上を含まなければならない。

社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、第3年次までの必修専門教育科目27単位、第3年次の選択必修科目12単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をす



ることはできない。

- (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、第3年次までの必修とする全実験科目、物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を、また、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、第3年次までの必修とする全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は第3年次までの選択必修実験科目の12単位以上、第3年次の必修とする系別全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を、また、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は第3年次までの必修とする全実験科目の単位及び外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、選択必修とする実験科目（A・B・C群のいずれかの科目群）の8単位及び第3年次までの外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の卒業論文の登録をすることはできない。

第6条の4 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
- (2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
- (3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科は20単位まで、建築学科は18単位までとする。

第6条の5 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については14単位、合計49単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、47単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次の各号に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。
- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。
- (3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次

の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

- (4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の6 薬学部の学生は、第1年次から第5年次のそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より10単位、第1外国語より2単位、単位互換科目を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次科目より17単位以上、合計35単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、合計18単位以上の修得を以って足りる。
- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、外国語科目より第1外国語6単位、単位互換科目を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、計48単位以上、合計74単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計26単位以上の修得を以って足りる。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、計74単位以上、合計102単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目25単位以上、計99単位以上、合計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目より12単位、第1外国語8単位、単位互換科目を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目17単位以上、2年次科目31単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目25単位以上、5年次科目34単位、計133単位以上、合計161単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、合計28単位以上の修得を以って足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

### 第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取消す。  
受講人員は20人を原則とする。

#### 附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

### 卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の3、工学部は第5条と第6条の4、薬学部は第5条と第6条の6）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

# 年次別授業科目表 (学科履修規程 第4条 別表)

令和2年度入学生 (20台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次										
		授業科目		授業科目		授業科目		授業科目				
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位			
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 日本史A 2 西洋史A 2 アジアの文化A 2	哲学B 2 倫理学B 2 日本史B 2 西洋史B 2 アジアの文化B 2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋学A 2 日本文学A 2 本邦文化A 2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋学B 2 日本文学B 2 本邦文化B 2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋学A 2 日本文学A 2 本邦文化A 2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋学B 2 日本文学B 2 本邦文化B 2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋学A 2 日本文学A 2 本邦文化A 2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋学B 2 日本文学B 2 本邦文化B 2		
		社会科学	政治学A 2 法政商教心育理A 2	政治学B 2 法政商教心育理B 2	経済学A 2 社会教育の原理・課程論A 2	経済学B 2 社会教育の原理・課程論B 2	文化人類学A 2	文化人類学B 2	文化人類学A 2	文化人類学B 2		
		自然科学	数学入門A 2 物理学A 2 地球科学A 2	数学入門B 2 物理学B 2 地球科学B 2	基礎数学A 2 自然界と物質の化学A 2 新しい地球観A 2	基礎数学B 2 自然界と物質の化学B 2 新しい地球観B 2	統計入門A 2 生活と環境の化学A 2 自然科学入門A 2	統計入門B 2 生活と環境の化学B 2 自然科学入門B 2	統計入門A 2 生活と環境の化学A 2 自然科学入門A 2	統計入門B 2 生活と環境の化学B 2 自然科学入門B 2	統計入門A 2 生活と環境の化学A 2 自然科学入門A 2	統計入門B 2 生活と環境の化学B 2 自然科学入門B 2
		総合系列科目	地球環境学A 2	地球環境学B 2	生命・健康と医療A 2	生命・健康と医療B 2	国際化と日本A 2	国際化と日本B 2	国際化と日本A 2	国際化と日本B 2	国際化と日本A 2	国際化と日本B 2
		学修基礎科目	福大生のためのキャリアデザイン 2	アカデミックスキルズゼミⅠ 2	アカデミックスキルズゼミⅡ 2	福蘭大学を学ぶ・福蘭大学でいかに学ぶか 2						
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ 1 ※インターミディエイト・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ 1 ※インターミディエイト・イングリッシュⅣ 1 アドバンスト・イングリッシュⅠ 1 アドバンスト・イングリッシュⅡ 1							
		第2	ドイツ語ⅠA 2 ドイツ語ⅠB 2 フランス語ⅠA 2 フランス語ⅠB 2 中国語ⅠA 2 中国語ⅠB 2 ロシア語ⅠA 2 ロシア語ⅠB 2 スペイン語ⅠA 2 スペイン語ⅠB 2 朝鮮語ⅠA 2 朝鮮語ⅠB 2	ドイツ語ⅡA 2 ドイツ語ⅡB 2 フランス語ⅡA 2 フランス語ⅡB 2 中国語ⅡA 2 中国語ⅡB 2 ロシア語ⅡA 2 ロシア語ⅡB 2 スペイン語ⅡA 2 スペイン語ⅡB 2 朝鮮語ⅡA 2 朝鮮語ⅡB 2								
		保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1	※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1								
		単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
		必修科目	スポーツ心理学 2 スポーツ哲学 2 陸上競技 1 体育器械運動Ⅰ 1 体育器械運動Ⅱ 1 フレッシュマンセミナーⅠ 2 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ生理学 2 スポーツバイオメカニクス 2 スポーツ整形外科学 2 スポーツ社会学 2 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6						
専門教育科目	選択必修科目	バレーボールⅠ 1 バスケットボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サッカーⅠ 1 柔剣道Ⅰ 1 ラゲビーⅠ 1 スキヤクⅠ 1 アスリートⅠ 1	バレーボールⅡ 1 バスケットボールⅡ 1 ハンドボールⅡ 1 サッカーⅡ 1 柔剣道Ⅱ 1 ラゲビーⅡ 1 スキヤクⅡ 1 アスリートⅡ 1	スケルトン 1 陸上競技Ⅱ 1 【体育器械運動Ⅱ】 1 器械運動Ⅱ 1 水泳Ⅱ 1 柔剣道Ⅱ 1 ラゲビーⅡ 1 サッカーⅡ 1 ハンドボールⅡ 1 バスケットボールⅡ 1 卓球Ⅰ 1 卓球Ⅱ 1 テニスⅠ 1 テニスⅡ 1 バドミントンⅠ 1 バドミントンⅡ 1	メンタルマネジメント 2							
		メンタルマネジメント 2										
		メンタルマネジメント 2										
		メンタルマネジメント 2										
		メンタルマネジメント 2										
	選択科目	スポーツ方法学 2 解剖生理学 2 コース獲得群	ピークパフォーマンス演習Ⅰ 2 発育発達老化学 2 スポーツ内科学 2 スポーツ測定評価演習Ⅰ 2 スポーツ測定評価演習Ⅱ 2 スポーツ栄養学 2	○ピークパフォーマンス演習Ⅱ 2 ○トップアスリートコーチング論 2 ○コーチ法実習 1	メンタルマネジメント 2							
		スポーツマッサージ 2 スポーツトレーニング概論 2 スポーツ方法学 2 解剖生理学 2 テーピング理論及び実習 2 ウェイトトレーニング演習Ⅰ 2 ウェイトトレーニング演習Ⅱ 2 スポーツ方法学 2 スタグ 1 体 2	スポーツ経営管理 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ内科学 2 スポーツ測定評価 2 スポーツトレーナー概論 2 身体コンディショニング論 2 スポーツ栄養学 2 保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化学 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	スポーツトレーナー実習 1 アスレチックリハビリテーション 2	○保健体育科教育法Ⅲ 2 ○保健体育科教育法Ⅳ 2 学校保健 2 公衆衛生学(含衛生学) 2 教職事前実習 2 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 【学校体育経営管理】 2 【保健教材演習】 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2						
		生涯スポーツ論 2	レジャー・レクリエーション論 2 野外教育概論 2	スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 アダプテッドスポーツ演習 2 スポーツコミュニケーション論 2 【哲学】 2 【スポーツメディア論】 2 スポーツバリエーション及び運動実践 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 球技論 2 柔道論 2 剣道論 2 陸上競技論 2 水泳論 2 体育器械運動論 2 基礎防災学 2 スポーツ行政論 2								
		生涯スポーツ教育 2	団 体 指 導 2 ス ポ ー ツ 統 計 学 2									
		コース共通科目群										

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次の選択必修科目から4単位以上、3年次の選択必修科目から2単位以上修得しなければならない。6単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に算入する。  
 4 3年次のコースを選択することができる。但し、トレーナーコースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 5 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。  
 [ ] 内は、今年度休講。



平成31年度入学生 (19台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 次								
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		社会科学	政治学A	2	社会学A	2	経済学A	2	政治学A	2
		自然科学	物理学A	2	化学A	2	生物学A	2	物理学B	2
		総合系科目	文化と教育	2	現代を生きる	2	文化人類学	2	文化人類学	2
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1		
		第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2	ドイツ語ⅢA	2		
	保健体育科目	単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目							
		必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4	卒業研究論文	6
	専門教育科目	選択必修科目	バスケットボール	1	バレーボール	1	スケート	1		
			ハンドボール	1	サッカー	1	陸上競技	1		
剣道			1	柔道	1	器械運動	1			
スキー			1	アイスホッケー	1	水泳	1			
選択科目		コース特許科目	スポーツ社会学	2	スポーツバイオメカニクス	2	スポーツ整形外科学	2		
		コース特許科目	スポーツ社会学	2	スポーツ社会学	2	スポーツ社会学	2		
科目目		コース特許科目	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション論	2	スポーツ産業論	2		
		コース特許科目	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション論	2	スポーツ産業論	2		
		コース特許科目	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション論	2	スポーツ産業論	2		
		コース特許科目	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション論	2	スポーツ産業論	2		

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次の選択必修科目から4単位以上、3年次の選択必修科目から2単位以上修得しなければならない。6単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に算入する。  
 4 コースの単位を履修できる。但し、トレーナーコースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 5 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。  
 ( ) 内は、今年度休講。



平成29年度入学生 (17台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第 1・2・3・4 年次										
		授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位		
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲倫日西中芸	2	理本学A	2	論宗東日西	2	理教東日西	2		
			西洋史A	2	理本学B	2	本洋文A	2	本洋文B	2		
		社会科学	法政商教心	2	学A	2	日経社教心	2	本教育史	2	西洋教育史	2
			治学B	2	学B	2	育原論	2	政商教地文	2	育理人類学	2
			学論A	2	学A	2	学B	2	学A	2	学B	2
	自然科学	数物地	2	学A	2	基礎数	2	統計入	2	物理科学入門	2	
		球環	2	学B	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	マクロの生物科学	2	
	総合系列科目	地球科学入門	2	学A	2	新し地球観	2	自然科学入門	2	自然科学と人間	2	
		地球環境	2	学B	2	生命・健康と医療	2	国際化	2	科学・技術・情報と社会	2	
		文化と教育	2	学A	2	現代を生きる	2					
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2		アカデミックスキルズゼミ I	2	アカデミックスキルズゼミ II	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2			
第 1 年次	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	第 3 年次		第 4 年次			
	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		授 業 科 目			
外 国 語 科 目	第 1	※フレッシュマン・イングリッシュ I	1	※インターミディエイト・イングリッシュ I	1	※インターミディエイト・イングリッシュ III	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュ II	1	※インターミディエイト・イングリッシュ II	1	※インターミディエイト・イングリッシュ IV	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュ III	1	※海外英語研修	2	アドバンスト・イングリッシュ I	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュ IV	1			アドバンスト・イングリッシュ II	1					
	第 2	ドイツ語 I A	2	ドイツ語 II A	2							
		フランス語 I A	2	フランス語 II A	2							
		中国語 I A	2	中国語 II A	2							
		ロシア語 I A	2	ロシア語 II A	2							
		スペイン語 I A	2	スペイン語 II A	2							
		朝鮮語 I A	2	朝鮮語 II A	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習 I	1	※生涯スポーツ演習 III	1								
単位互換科目	※生涯スポーツ演習 II	1	※生涯スポーツ演習 IV	1								
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目												
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4	卒業研究論文	6			
		スポーツ哲学総論	2	スポーツバイオメカニクス	2							
	陸上競技	2	スポーツ整形外科学	2								
	陸上競技	2	スポーツ社会学	2								
	陸上競技	2	水泳 I	1								
	陸上競技	2	水泳 II	2								
	陸上競技	2	水泳 III	2								
	陸上競技	2	水泳 IV	2								
	陸上競技	2	水泳 V	2								
	陸上競技	2	水泳 VI	2								
選 択 必 修 科 目		バレーボール I	1	バレーボール II	1	スケート I	1					
		バスケットボール I	1	バスケットボール II	1	陸上競技 II	1					
		ハンドボール I	1	ハンドボール II	1	【陸上競技 II】	1					
		柔道 I	1	柔道 II	1	器械運動 II	1					
		剣道 I	1	剣道 II	1	水泳 II	1					
		柔剣ラグビー I	1	柔剣ラグビー II	1	器械運動 III	1					
		スキューバ I	1	スキューバ II	1	器械運動 IV	1					
		スキー II	1	スキー III	1	器械運動 V	1					
		スキー III	1	スキー IV	1	器械運動 VI	1					
		スキー IV	1	スキー V	1	器械運動 VII	1					
選 択 科 目	コア推挙科目	スポーツ方法学	2	ピークパフォーマンス演習 I	2	○ピークパフォーマンス演習 II	2	メンタルマネジメント	2			
		解剖生理学	2	発育発達老化学	2	○トップアスリートコーチング	2					
	トレーナーコース	スポーツマッサージ	2	スポーツ情報処理実習	2	○スポーツトレーナー実習	1	メンタルマネジメント	2			
		スポーツ方法学	2	スポーツ内科学	2	アスレチックリハビリテーション	2					
	保健体育教員コース	解剖生理学	2	スポーツ測定評価	2							
		テーピング理論及び実習	2	ウェイトトレーニング演習	2							
	コア推挙科目	スポーツ史	2	保健体育科教育法 I	2	保健体育科教育法 III	2	○保健体育教職演習 II	2			
		スポーツ方法学	2	保健体育科教育法 II	2	保健体育科教育法 IV	2					
	生涯スポーツ科	生涯スポーツ論	2	発育発達老化	2	学 校 保 健	2					
			2	スポーツ情報処理実習	2	公衆衛生学 (含衛生学)	2					
コ ー ス 共 通 科 目 群		レジャー・レクリエーション総論	2	スポーツ運動学	2	教職事前実習	1					
		野外教育概論	2			○保健体育教職演習 I	2					
		団体指導	2			【学校体育経営管理学】	2					
		スポーツ統計学	2			【保健教材演習】	2					
			2			スポーツ産業論	2					
			2			スポーツマーケティング論	2					
			2			社会調査実習	2					
			2			アダプテッドスポーツ演習	2					
			2			スポーツコミュニケーション論	2					
			2			【コーチ哲学】	2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2,3年次の選択必修科目から4単位以上、3年次の選択必修科目から2単位以上修得しなければならない。6単位を超えて修得した単位数は選択必修科目に算入しない。  
 4 コースの単位数を履修できる。但し、トレーナーコースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。なお、○科目は当該コースの学生が履修できる。  
 5 スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 生涯スポーツ科の教育コースは、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに算入しない。  
 【 】内は、今年度休講。

平成28年度入学生 (16台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次									
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2	
		社会科学	政治学A	2	政治学B	2	社会学A	2	社会学B	2	
		自然科学	物理学A	2	物理学B	2	化学A	2	化学B	2	
		総合系列科目	文化と教育	2	現代を生きる	2	国際化	2	科学・技術・情報と社会	2	
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン		2	アカデミックスキルズゼミⅠ		2	アカデミックスキルズゼミⅡ		2	
								福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか		2	
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ		1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ		1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ		1
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ		1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ		1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ		1
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ		1	海外英語研修		2	アドバンスト・イングリッシュⅠ		1
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ		1				アドバンスト・イングリッシュⅡ		1
第2		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2						
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2						
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2						
		ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2						
		スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
		朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ		1	※生涯スポーツ演習Ⅲ		1					
単位互換科目	※生涯スポーツ演習Ⅱ		1	※生涯スポーツ演習Ⅳ		1					
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4	卒業研究論文		6	
		スポーツ哲学総論	2	スポーツバイオメカニクス	2						
	選択必修科目	陸上競技	1	スポーツ整形外科学	2						
		器械運動Ⅰ	1	スポーツ社会学	2						
		器械運動Ⅱ	1	水泳Ⅰ	2						
		柔剣道Ⅰ	1	水泳Ⅱ	2						
		柔剣道Ⅱ	1	ステップアップセミナー	2						
		ラグビーⅠ	1	バレエⅠ	1	スケートⅠ	1				
		ラグビーⅡ	1	バスケットボールⅠ	1	陸上競技Ⅱ	1				
		サッカーⅠ	1	バスケットボールⅡ	1	陸上競技Ⅲ	1				
サッカーⅡ	1	ハンドボールⅠ	1	器械運動Ⅲ	1						
ハンドボールⅡ	1	ハンドボールⅡ	1	器械運動Ⅳ	1						
バスケットボールⅢ	1	バスケットボールⅢ	1	器械運動Ⅴ	1						
卓球Ⅰ	1	卓球Ⅱ	1	器械運動Ⅵ	1						
卓球Ⅲ	1	卓球Ⅳ	1	器械運動Ⅶ	1						
バドミントンⅠ	1	バドミントンⅡ	1	器械運動Ⅷ	1						
バドミントンⅢ	1	バドミントンⅣ	1	器械運動Ⅷ	1						
レスリングⅠ	1	レスリングⅡ	1	器械運動Ⅷ	1						
レスリングⅢ	1	レスリングⅣ	1	器械運動Ⅷ	1						
選	コア推挙科目	解剖生理学	2	ピークパフォーマンス演習Ⅰ	2	○ピークパフォーマンス演習Ⅱ	2	メンタルマネジメント		2	
科目群	コア推挙科目	解剖生理学	2	発育発達老化学	2	○トップアスリートコーチ論	2				
		解剖生理学	2	スポーツ測定評価演習Ⅰ	2	○コーチ法実習	1				
	トレーナーコース	スポーツマッサージ	2	スポーツ経営管理Ⅰ	2						
		スポーツトレーニング概論	2	スポーツ情報処理実習	2						
	保健体育教員コース	解剖生理学	2	スポーツ内科学	2						
		テーピング理論及び実習	2	スポーツ測定評価	2						
	コア推挙科目	ウェイトトレーニング演習	2	身体コンディショニング論	2						
		ウェイトトレーニング演習	2	スポーツ栄養学	2						
	コア推挙科目	スポーツ社会学	2	保健体育科教育法Ⅰ	2						
		スポーツ社会学	2	保健体育科教育法Ⅱ	2						
コア推挙科目	スポーツ社会学	2	発育発達老化学	2							
	スポーツ社会学	2	スポーツ情報処理実習	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション総論	2							
	生涯スポーツ論	2	野外教育概論	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2							
	生涯スポーツ論	2	スポーツ統計学	2							
コア推挙科目	生涯スポーツ論	2	団体指導	2</							



平成27年度入学生 (15台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第 1・2・3・4 年次								
		授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲倫日西中芸	2	哲倫日西中芸	2	論宗東日西	2	論宗東日西	2
			理本洋	2	理本洋	2	教東日西	2	教東日西	2
		社会科学	学A	2	学B	2	学A	2	学B	2
			学A	2	学B	2	学A	2	学B	2
			学A	2	学B	2	学A	2	学B	2
	自然科学	数物地	2	基礎数	2	統計入	2	物理科	2	
		学A	2	学B	2	学A	2	学B	2	
		学A	2	学B	2	学A	2	学B	2	
	総合系列科目	地球圏科学入門	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	マクロの生物学	2	
		地球環境	2	新しき地球観	2	自然科学入門	2	自然科学と人間	2	
学修基盤科目	文化と教育	2	現代を生きる	2	国際化	2	科学・技術・情報と社会	2		
教育科目	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次			
	授 業 科 目		授 業 科 目		授 業 科 目		授 業 科 目			
外 国 語 科 目	第 1	※フレッシュマン・イングリッシュI	1	※インターミディエイト・イングリッシュI	1	※インターミディエイト・イングリッシュIII	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュII	1	※インターミディエイト・イングリッシュII	1	※インターミディエイト・イングリッシュIV	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュIII	1	海 外 英 語 研 修	2	アドバンスト・イングリッシュI	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュIV	1			アドバンスト・イングリッシュII	1			
	第 2	ドイツ語I A	2	ドイツ語II A	2					
		フランス語I A	2	フランス語II A	2					
		中国語I A	2	中国語II A	2					
		ロシア語I A	2	ロシア語II A	2					
		スペイン語I A	2	スペイン語II A	2					
		朝鮮語I A	2	朝鮮語II A	2					
保健体育科目	※生涯スポーツ演習I	1	※生涯スポーツ演習III	1						
単位互換科目	※生涯スポーツ演習II	1	※生涯スポーツ演習IV	1						
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目										
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4	卒業研究論文	6	
		スポーツ哲学総論	2	スポーツバイオメカニクス	2					
	陸上競技	1	スポーツ整形外科学	2						
	体育器械運動I	1	スポーツ社会学	2						
	器械運動II	1	水泳I	1						
	フレッシュマンセミナーI	2	ステップアップセミナー	2						
	フレッシュマンセミナーII	2								
	選択必修科目				バレーボールI	1	スケートI	1		
					バスケットボールI	1	陸上競技II	1		
					ハンドボールI	1	【体育器械運動II】	1		
				柔道I	1	器械運動II	1			
				剣道I	1	水泳II	1			
				柔剣道I	1	道II	1			
選 択 科 目	コア必修群	スポーツ方法学	2	ピークパフォーマンス演習I	2	○ピークパフォーマンス演習II	2	メンタルマネジメント	2	
		解剖生理学	2	発育発達老化学	2	○トップアスリートコーチング	2			
	トレーナーコース	スポーツマッサージ	2	スポーツ情報処理実習	2	○スポーツトレーナー実習	1	メンタルマネジメント	2	
		スポーツ方法学	2	スポーツ内科学	2	アスレチックリハビリテーション	2			
		解剖生理学	2	スポーツ測定評価	2					
		体育器械運動	2	スポーツトレーナー概論	2					
	保健体育教員コース	スポーツ史	2	身体コンディショニング論	2					
		スポーツ方法学	2	スポーツ栄養学	2					
		スタジアム	1	保健体育科教育法I	2	保健体育科教育法III	2	○保健体育教職演習II	2	
		スタジアム	2	保健体育科教育法II	2	保健体育科教育法IV	2			
生涯スポーツ群	生涯スポーツ論	2	発育発達老化	2	学 校 保 健	2				
			スポーツ情報処理実習	2	公衆衛生学(含衛生学)	1				
コ ー ス 共 通 科 目 群	コア必修群	生涯スポーツ論	2	レジャー・レクリエーション総論	2	○保健体育教職演習I	2			
				野外教育概論	2	【学校体育経営管理学】	2			
	コア共通科目群				団体指導	2	【保健教材演習】	2		
					スポーツ統計学	2	スポーツ産業論	2		
							スポーツマーケティング論	2		
							社会調査実習	2		
							アダプテッドスポーツ演習	2		
							スポーツコミュニケーション論	2		
							【コーチ哲学】	2	簿記入門I	2
							スポーツメディア論	2		
					スポーツ付加価値及び運動実験	2				
					スポーツ心理学実験	2				
					スポーツ生理学実験	2				
					球技論	2				
					柔道論	2				
					剣道論	2				
					陸上競技論	2				
					ダンス論	2				
					水泳論	2				
					体育器械運動論	2				
					基礎防災学	2				
					スポーツ行政論	2				

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次科目の選択必修科目から4単位以上、3年次の選択必修科目から2単位以上修得しなければならない。6単位を超えて修得した単位数は選択必修科目に算入しない。  
 4 コース共通科目の単位数は履修できる。但し、トレーナーコースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。なお、○科目は当該コースの学生が履修できる。  
 5 生涯スポーツ群、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 「」内は、今年度休講。



平成25年度入学生 (13台)

スポーツ科学部 スポーツ科学科

※印は必修

		第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 次								
		授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲倫理学A	2	哲倫理学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		社会科学	日西史A	2	日西史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		自然科学	物理学A	2	物理学B	2	化学A	2	化学B	2
		総合系列科目	地球科学入門	2	新しい地球観	2	統計入門	2	物理科学入門	2
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュI	1	※インターメディアイト・イングリッシュI	1	※インターメディアイト・イングリッシュIII	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュII	1	※インターメディアイト・イングリッシュII	1	※インターメディアイト・イングリッシュIV	1		
		第2	ドイツ語I A	2	ドイツ語II A	2				
			フランス語I A	2	フランス語II A	2				
			中国語I A	2	中国語II A	2				
			ロシア語I A	2	ロシア語II A	2				
保健体育科目	※生涯スポーツ演習I	1	※生涯スポーツ演習III	1						
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4	卒業研究論文	6	
		スポーツ哲学総論	2	スポーツバイオメカニクス	2					
	選択必修科目	陸上競技	1	バスケットボールI	1	スケートI	1			
		器械運動I	1	バスケットボールII	1	陸上競技II	1			
		プレッシュマンセミナーI	2	ハンドボールI	1	【体づくり運動II】	1			
		プレッシュマンセミナーII	2	サッカーI	1	器械運動II	1			
				サッカーII	1	水泳II	1			
				柔剣I	1	柔道II	1			
				剣道I	1	剣道II	1			
				スキューバI	1	ラグビーII	1			
選 択 科 目	アスリート・コーチ	2	ピークパフォーマンス演習I	2	○ピークパフォーマンス演習II	2	メンタルマネジメント	2		
	コース推進科目	2	発育発達老化学	2	○トップアスリートコーチ論	2				
	トレーナーコース	2	スポーツ内科学	2	○コーチ法実習	1				
	選 択 科 目	2	スポーツ測定評価	2						
	2	スポーツ栄養学	2	○スポーツトレーナー実習	1	メンタルマネジメント	2			
	2	アスレチックリハビリテーション	2							
科 目	保健体育科教育法I	2	保健体育科教育法II	2	保健体育科教育法III	2	○保健体育教職演習II	2		
	保健体育科教育法II	2	発育発達老化学	2	学校保健	2				
	保健体育科教育法III	2	スポーツ情報処理実習	2	公衆衛生学(含衛生学)	2				
	2	スポーツ運動学	2	○保健体育教職演習I	2	教職事前実習	2			
	2	レジャー・レクリエーション総論	2	○保健体育教職演習II	2	【保健体育経営実習】	2			
	2	野外教育概論	2	○保健体育教職演習III	2	【保健教材演習】	2			
目 録	生涯スポーツ論	2	団体指導	2	スポーツ産業論	2				
			スポーツ統計学	2	スポーツマーケティング論	2				
					社会調査実習	2				
					アダプテッドスポーツ演習	2				
					スポーツコミュニケーション論	2				
					【コーチ哲学】	2	スポーツ行政論	2		

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 2年次の選択必修科目から4単位以上、3年次の選択必修科目から2単位以上修得しなければならない。6単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に算入する。  
 3 3年次のコースが履修できる。但し、トレーナーコースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。なお、○科目は当該コースの履修条件を満たすことである。  
 4 コースの履修条件を満たすことである。  
 5 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件124単位のなかに入れない。  
 ( ) 内は、今年度休講。

令和2年度入学生 (20台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 目録学A 2 西史A 2 アジアの文芸学A 2	哲学B 2 倫理学B 2 目録学B 2 西史B 2 アジアの文芸学B 2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋学A 2 日本文学A 2 西日本文学A 2 日本教育史 2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋学B 2 日本文学B 2 西日本文学B 2 西洋教育史 2	政治学A 2 法政商学B 2 治商学B 2 教育論B 2 心育学A 2	経済学A 2 経社学A 2 教育の原理・課程論 2 基礎心理学B 2	憲法 2 日本国憲法 2 商学A 2 教育論A 2 地文化人類学A 2 文化人類学A 2	政治学A 2 商学A 2 教育論A 2 地文化人類学B 2 文化人類学B 2
		自然科学	数学入門 2 物理の世界 2 地球科学入門 2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2	総合系列科目	地球と環境 2 文化と教育 2	生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	国際化と日本 2
	学修基礎科目	福大生のためのキャリアデザイン 2		アカデミックスキルズゼミⅠ 2		アカデミックスキルズゼミⅡ 2		福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2		
			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1		※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2		※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1 アドバンスト・イングリッシュⅠ 1 アドバンスト・イングリッシュⅡ 1				
		第2	ドイツ語ⅠA 2 ドイツ語ⅠB 2	ドイツ語ⅡA 2 ドイツ語ⅡB 2						
	フランス語ⅠA 2 フランス語ⅠB 2		フランス語ⅡA 2 フランス語ⅡB 2							
	中国語ⅠA 2 中国語ⅠB 2		中国語ⅡA 2 中国語ⅡB 2							
	ロシア語ⅠA 2 ロシア語ⅠB 2 スペイン語ⅠA 2 スペイン語ⅠB 2 朝鮮語ⅠA 2 朝鮮語ⅠB 2		ロシア語ⅡA 2 ロシア語ⅡB 2 スペイン語ⅡA 2 スペイン語ⅡB 2 朝鮮語ⅡA 2 朝鮮語ⅡB 2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1		※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1							
単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動Ⅰ 1 ダンス 1 フレッシュマンセミナーⅠ 2 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キャンプⅠ 1 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6					
		選択必修科目	解剖生理学Ⅰ 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2	健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2	水泳Ⅱ 1 運動療法・処方 2 （含むリハビリテーション） 公衆衛生学（含衛生学） 2 フィットネス実習 1 エアロビックエクササイズ 1 健康運動指導演習Ⅰ 2	○健康運動指導演習Ⅱ 2 運動療法実習 1				
	選択科目	スポーツ史 2 スポーツ方法学 2	保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	保健体育科教育法Ⅲ 2 保健体育科教育法Ⅳ 2 学校保健 2 公衆衛生学（含衛生学） 2 教職事前実習 1 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 〔学校体育経営管理学〕 2 〔保健教材演習〕 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2					
		生涯スポーツ教育	健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2	レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 野外教育・レクリエーション支援論 2 社会福祉論 2 アダプテッドスポーツ演習 2 キャンプⅡ 1						
		コース共通科目群	スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1	スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団体指導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サングラビ 1 柔道Ⅰ 1 剣道Ⅰ 1 スキューバ 1 アクアスポーツ 1	スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 スケート 1 テニス 1 卓球 1 〔体づくり運動Ⅱ〕 1 パドミントン 1 レスリング 1 ゴルフ 1 基礎防災学 2 スポーツ行政論 2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 3 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 4 2年次の選択必修科目から2単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 5 3年次にコースを選ぶことができる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 6 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 7 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 8 各分野の推奨科目については別に定める。  
 9 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 10 [ ] 内は、今年度休講。



平成31年度入学生 (19台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 次								
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 日本史A 2 西洋史A 2 アジアの文化A 2 芸術A 2	2	哲学B 2 倫理学B 2 日本史B 2 西洋史B 2 アジアの文化B 2 芸術B 2	2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋史A 2 日本文学A 2 西日本文学A 2 日本教育史A 2	2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋史B 2 日本文学B 2 西日本文学B 2 西洋教育史A 2	2
		社会科学	政治学B 2 法政商学B 2 教育心理学A 2	2	経済学A 2 経社学A 2 教育の原理・課程論 2 心理学B 2	2	日本国憲法 2 社会心理学B 2 地文化人類学A 2 文化人類学A 2	2	政治学A 2 商教養論A 2 地文化人類学B 2 文化人類学B 2	2
	自然科学	数学入門 2 物理の世界 2 地球科学入門 2	2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2	2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2	2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2	2	
	総合系列科目	地球と環境 2 文化と教育 2	2	生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	2	国際化と日本 2	2	科学・技術・情報と社会 2	2	
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン 2	2	アカデミックスキルズゼミⅠ 2	2	アカデミックスキルズゼミⅡ 2	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2	2	
教育科目	第 1 年 次		第 2 年 次		第 3 年 次		第 4 年 次			
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		
外 国 語 科 目	第 1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディア・イングリッシュⅠ	1	※インターメディア・イングリッシュⅢ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディア・イングリッシュⅡ	1	※インターメディア・イングリッシュⅣ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	海外英語研修	2	アドバンス・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1			アドバンス・イングリッシュⅡ	1			
	第 2	【ドイツ語ⅠA】	2	【ドイツ語ⅡA】	2					
		【ドイツ語ⅠB】	2	【ドイツ語ⅡB】	2					
		【フランス語ⅠA】	2	【フランス語ⅡA】	2					
		【フランス語ⅠB】	2	【フランス語ⅡB】	2					
		【中国語ⅠA】	2	【中国語ⅡA】	2					
		【中国語ⅠB】	2	【中国語ⅡB】	2					
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅲ	1						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1	※生涯スポーツ演習Ⅳ	1						
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学	2	スポーツ内科学	2	健康スポーツ演習	4	卒業研究論文	6	
		生涯スポーツ論	2	スポーツ生理学	2	スポーツ科学演習	4			
	体力づくり運動学	1	レジャー・レクリエーション総論	2						
	体づくり運動学	1	スポーツ社会学	2						
	フレッシュマンセミナーⅠ	1	健康スポーツ論	2						
	フレッシュマンセミナーⅡ	2	キャンプⅠ	1						
		2	水泳Ⅰ	1						
		2	ステップアップセミナー	2						
	選択必修科目			スポーツ整形外科学	2					
				健康運動器外科学	2					
選 択 科 目	コース推奨科目群	解剖生理学Ⅰ	2	健康スポーツ心理学	2	水泳Ⅱ	1	○健康運動指導演習Ⅱ	2	
		解剖生理学Ⅱ	2	運動栄養学	2	運動療法・処方	2	○運動療法実習	1	
	ウェイトトレーニング演習	2	身体コンディショニング論	2	(含むリハビリテーション)					
			スポーツバイオメカニクス	2	公衆衛生学(含衛生学)	2				
	コース推奨科目群	スポーツ史	2	保健体育科教育法Ⅰ	2	フィットネス実習	1			
		スポーツ方法学	2	保健体育科教育法Ⅱ	2	エアロビックエクササイズ	1			
			発達発達老化	2	○健康運動指導演習Ⅰ	2				
			スポーツ情報処理実習	2	保健体育科教育法Ⅲ	2				
	コース共通科目群			スポーツ運動学	2	保健体育科教育法Ⅳ	2	○保健体育教職演習Ⅱ	2	
						学校保健	2			
			健康スポーツ経済学	2	公衆衛生学(含衛生学)	2				
			健康スポーツ心理学	2	教職事前実習	1				
			野外教育概論	2	○保健体育教職演習Ⅰ	2				
					〔学校体育経営管理学〕	2				
					〔保健教材演習〕	2				
					レクリエーション演習Ⅰ	2				
					レクリエーション演習Ⅱ	2				
					スポーツ産業論	2				
					スポーツマーケティング論	2				
					社会調査実習	2				
					野外教育・レクリエーション支援論	2				
					社会福祉論	2				
					アダプテッドスポーツ演習	2				
					キャンプⅡ	1				
					スポーツコミュニケーション論	2				
					生涯スポーツ実習	1				
					スポーツバイオメカニクス及び運動学	2				
					スポーツ心理学実験	2				
					スポーツ生理学実験	2				
					ストリート	1				
					テニス	1				
					卓球	1				
					〔体づくり運動Ⅱ〕	1				
					バドミントン	1				
					レスリング	1				
					ゴルフ	1				
					基礎防災学	2				
					スポーツ行政論	2				

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンス・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次の選択必修科目は、10単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 4 3年次のコースは、そのコースの学生のみが履修できる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 5 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 6 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 7 各分野の推奨科目については、別に定める。  
 8 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 9 [ ] 内は、今年度休講。

平成30年度入学生 (18台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 目録学A 2 西中史A 2 国文A 2 芸術A 2	哲学B 2 倫理学B 2 目録学B 2 西中史B 2 国文B 2 芸術B 2	論理学A 2 宗東洋学A 2 日本文学A 2 西日本文学A 2 日本教育史A 2	論理学B 2 宗東洋学B 2 日本文学B 2 西日本文学B 2 西洋教育史A 2	政治学A 2 法政商学B 2 教心学B 2 育理学A 2	経済学A 2 経社学A 2 教心学A 2 育理学B 2	憲法学A 2 日経社学B 2 地文化学A 2 文化人類学A 2	政治学A 2 商教育論A 2 地文化学B 2 文化人類学B 2
		自然科学	数学入門 2 物理の世界 2 地球科学入門 2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2	物理科学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2				
	総合系列科目	地球と環境 2 文化と教育 2	生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	国際化と日本 2	科学・技術・情報と社会 2					
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン 2	アカデミックスキルズゼミⅠ 2	アカデミックスキルズゼミⅡ 2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2					
	教育科目	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次					
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1	※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2	※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1 アドバンス・イングリッシュⅠ 1 アドバンス・イングリッシュⅡ 1						
		第2	【ドイツ語ⅠA 2 ドイツ語ⅠB 2 フランス語ⅠA 2 フランス語ⅠB 2 中国語ⅠA 2 中国語ⅠB 2 ロシア語ⅠA 2 ロシア語ⅠB 2 スペイン語ⅠA 2 スペイン語ⅠB 2 朝鮮語ⅠA 2 朝鮮語ⅠB 2	【ドイツ語ⅡA 2 ドイツ語ⅡB 2 フランス語ⅡA 2 フランス語ⅡB 2 中国語ⅡA 2 中国語ⅡB 2 ロシア語ⅡA 2 ロシア語ⅡB 2 スペイン語ⅡA 2 スペイン語ⅡB 2 朝鮮語ⅡA 2 朝鮮語ⅡB 2						
	保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1	※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1							
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目								
	専門教育科目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動Ⅰ 1 ダッシュマンセミナーⅠ 1 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キャンプⅠ 1 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6				
			選択必修科目	解剖生理学Ⅰ 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2	健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2	水泳Ⅱ 1 運動療法・処方 2 （含むリハビリテーション） 公衆衛生学（含衛生学） 2 フィットネス実習 1 エアロビックエクササイズ 1 ○健康運動指導演習Ⅰ 2	○健康運動指導演習Ⅱ 2 運動療法実習 1			
		選択科目	スポーツ史 2 スポーツ方法学 2	保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	健康スポーツ教育法Ⅲ 2 保健体育科教育法Ⅳ 2 学校保健 2 公衆衛生学（含衛生学） 2 教職事前実習 1 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 〔学校体育経営管理学〕 2 〔保健教材演習〕 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2				
			生涯スポーツ教育 2	健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2	レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 野外教育・レクリエーション支援論 2 社会福祉論 2 アダプテッドスポーツ演習 2 キャンプⅡ 1					
		コース共通科目群	スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1	スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団体指導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サラグビ 1 柔道Ⅰ 1 剣道Ⅰ 1 スキューバ 1 アクアスポーツ 1	スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 ステータス 1 テニス 1 卓球 1 〔体づくり運動Ⅱ〕 1 バドミントン 1 レスリング 1 ゴルフ 1 基礎防災学 2 スポーツ行政論 2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンス・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 3 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 4 2年次の選択必修科目から2単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 5 3年次のコースを選択することができる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することができる。  
 6 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 7 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 8 各分野の推奨科目については別に定める。  
 9 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 10 〔 〕内は、今年度休講。

平成29年度入学生 (17台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 次									
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 日本史A 2 西洋史A 2 中国文A 2	哲学B 2 倫理学B 2 日本史B 2 西洋史B 2 中国文B 2	論理学A 2 宗教学A 2 東洋史A 2 日本文学A 2 西文学A 2	論理学B 2 宗教学B 2 東洋史B 2 日本文学B 2 西文学B 2	憲法史 2 政治学A 2 社会学B 2 教育心理学A 2 文化人類学A 2	政治学B 2 商学A 2 教育論A 2 地文化人類学B 2 物理学入門 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2		
		社会科学	法政商学A 2 治学B 2 教育心理学B 2 教育心理学A 2	法経社会学A 2 経済社会学A 2 社会心理学A 2 教育心理学B 2	日本国憲法 2 日経社会学B 2 社会学B 2 地文化人類学A 2 文化人類学A 2	政治学B 2 商学A 2 教育論A 2 地文化人類学B 2 物理学入門 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2				
		自然科学	数学入門 2 物理の世界 2 地球科学入門 2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2				
		総合系列科目	地球と環境 2 文化と教育 2	生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	国際化と日本 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2				
		学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン 2	アカデミックスキルズゼミⅠ 2	アカデミックスキルズゼミⅡ 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2				
外 国 語 科 目	第 1 第 2	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次			
		授 業 科 目		授 業 科 目		授 業 科 目		授 業 科 目			
		単位		単位		単位		単位			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1		※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2		※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1 アドバンス・イングリッシュⅠ 1 アドバンス・イングリッシュⅡ 1					
		【ド イ ツ 語Ⅰ A 2 ド イ ツ 語Ⅰ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ B 2 中 国 語Ⅰ A 2 中 国 語Ⅰ B 2 ロ シ ア 語Ⅰ A 2 ロ シ ア 語Ⅰ B 2 ス ペ イ ン 語Ⅰ A 2 ス ペ イ ン 語Ⅰ B 2 朝 鮮 語Ⅰ A 2 朝 鮮 語Ⅰ B 2		ド イ ツ 語Ⅱ A 2 ド イ ツ 語Ⅱ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ B 2 中 国 語Ⅱ A 2 中 国 語Ⅱ B 2 ロ シ ア 語Ⅱ A 2 ロ シ ア 語Ⅱ B 2 ス ペ イ ン 語Ⅱ A 2 ス ペ イ ン 語Ⅱ B 2 朝 鮮 語Ⅱ A 2 朝 鮮 語Ⅱ B 2							
保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1		※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1							
単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動学 1 ダグメン 1 フレッシュマンセミナーⅠ 2 フレッシュマンセミナーⅡ 2		スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キャンプⅠ 1 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2		健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4		卒業研究論文 6			
		選択必修科目		スポーツ整形外科学 2 健康運動器外科学 2							
		コース推奨科目群		解剖生理学Ⅰ 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2		健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2		水泳Ⅱ 1 運動療法・処方 2 （含むリハビリテーション） 公衆衛生学（含衛生学） 2 フィットネス実習 1 エアロビックエクササイズ 1 ○健康運動指導演習Ⅰ 2		○健康運動指導演習Ⅱ 2 運動療法実習 1	
		コース推奨科目群		スポーツ史 2 スポーツ方法学 2		保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2		保健体育科教育法Ⅲ 2 保健体育科教育法Ⅳ 2 学校保健 2 公衆衛生学（含衛生学） 2 教職事前実習 2 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 〔学校体育経営管理学〕 2 〔保健教材演習〕 2		○保健体育教職演習Ⅱ 2	
		コース推奨科目群		健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2		健康スポーツ経営管理学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2		レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 野外教育・レクリエーション支援論 2 社会福祉論 2 アダプテッドスポーツ演習 2 キャンプⅡ 1			
コース共通科目群		スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1		スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団体指導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サッカーⅠ 1 ラグビーⅠ 1 柔道Ⅰ 1 剣道Ⅰ 1 スキー 1 アクアスポーツ 1		スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 ステータス 1 テニス 1 卓球 1 〔体づくり運動Ⅱ〕 1 パドミントン 1 レスリング 1 ゴルフ 1 基礎防災学 2 スポーツ行政論 2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンス・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次に選択必修科目から2単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 4 3年次にコースを選ぶことができる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 5 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 6 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 7 各分野の推奨科目については、別に定める。  
 8 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 9 [ ] 内は、今年度休講。

平成28年度入学生 (16台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 目録学A 2 西中史A 2 国文A 2 芸術A 2	哲学B 2 倫理学B 2 目録学B 2 西中史B 2 国文B 2 芸術B 2	論理学A 2 宗東洋学A 2 日本文学A 2 西日本文学A 2 日本教育史A 2	論理学B 2 宗東洋学B 2 日本文学B 2 西日本文学B 2 西洋教育史A 2	政治学A 2 法政商学B 2 教心学B 2 育理学A 2	経済学A 2 経社学A 2 教心学A 2 育理学B 2	憲法A 2 日経社学B 2 地文化学A 2 文化人類学A 2	政治学A 2 商教育論A 2 地文化学B 2 文化人類学B 2
		自然科学	数学入門 2 物理の世界 2 地球科学入門 2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2	物理科学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2				
	総合系列科目	地球と環境 2 文化と教育 2	生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	国際化と日本 2	科学・技術・情報と社会 2					
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン 2	アカデミックスキルズゼミⅠ 2	アカデミックスキルズゼミⅡ 2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2					
	教育科目	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次					
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1	※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2	※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1 アドバンスト・イングリッシュⅠ 1 アドバンスト・イングリッシュⅡ 1						
		第2	【ドイ ツ 語Ⅰ A 2 ドイ ツ 語Ⅰ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ B 2 中 国 語Ⅰ A 2 中 国 語Ⅰ B 2 ロ シ ア 語Ⅰ A 2 ロ シ ア 語Ⅰ B 2 ス ベ イ ン 語Ⅰ A 2 ス ベ イ ン 語Ⅰ B 2 朝 鮮 語Ⅰ A 2 朝 鮮 語Ⅰ B 2	【ドイ ツ 語Ⅱ A 2 ドイ ツ 語Ⅱ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ B 2 中 国 語Ⅱ A 2 中 国 語Ⅱ B 2 ロ シ ア 語Ⅱ A 2 ロ シ ア 語Ⅱ B 2 ス ベ イ ン 語Ⅱ A 2 ス ベ イ ン 語Ⅱ B 2 朝 鮮 語Ⅱ A 2 朝 鮮 語Ⅱ B 2						
	保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1	※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1							
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目								
	専門教育科目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動Ⅰ 1 ダグメン 1 フレッシュマンセミナーⅠ 2 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キャンプⅠ 1 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6				
			選択必修科目	解剖生理学Ⅰ 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2	健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2	水泳Ⅱ 1 運動療法・処方 2 （含むリハビリテーション） 公衆衛生学（含衛生学） 2 フィットネス実習 1 エアロビックエクササイズ 1 ○健康運動指導演習Ⅰ 2	○健康運動指導演習Ⅱ 2 運動療法実習 1			
		選択科目	スポーツ史 2 スポーツ方法学 2	保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	健康体育科教育法Ⅲ 2 健康体育科教育法Ⅳ 2 学校保健 2 公衆衛生学（含衛生学） 2 教職事前実習 2 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 〔学校体育経営管理学〕 2 〔保健教材演習〕 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2				
			生涯スポーツ教育 2	健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2	レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 野外教育・レクリエーション支援論 2 社会福祉論 2 アダプテッドスポーツ演習 2 キャンプⅡ 1					
		コース共通科目群	スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1	スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団体指導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サングラビ 1 柔道Ⅰ 1 剣道Ⅰ 1 スキュー 1 アクアスポーツ 1	スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 ステータス 1 テニス 1 卓球 1 〔体づくり運動Ⅱ〕 1 パドミントン 1 レスリング 1 ゴルフ 1 基礎防災学 2 スポーツ行政論 2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンスト・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 3 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 4 2年次の選択必修科目から2単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 5 3年次のコースを選択することができる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 6 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 7 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 8 各分野の推奨科目については別に定める。  
 9 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 10 〔 〕内は、今年度休講。



平成27年度入学生 (15台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 次									
		授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		
共 通 教 育 科 目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 目録学A 2 西中史A 2 国文A 2 芸術A 2	哲学B 2 倫理学B 2 目録学B 2 西中史B 2 国文B 2 芸術B 2	論理学A 2 宗東洋史A 2 日本文学A 2 西日本文学A 2 日本教育史A 2	論理学B 2 宗東洋史B 2 日本文学B 2 西日本文学B 2 西洋教育史A 2	政治学A 2 法政商学B 2 教心学B 2 育理学A 2	経済学A 2 社経学A 2 教心学A 2 育理学B 2	憲法学A 2 日経社学B 2 地会学B 2 文化人類学A 2	政治学A 2 商教育論A 2 地文理学B 2 文化人類学B 2	
		自然科学	数学入門A 2 物理の世界A 2 地球科学入門A 2	基礎数学A 2 自然界と物質の化学A 2 新しい地球観A 2	統計入門A 2 生活と環境の化学A 2 自然科学入門A 2	物理学入門A 2 マクロの生物科学A 2 自然科学と人間A 2	総合系列科目	文化と環境A 2 地球と教育A 2	生命・健康と医療A 2 現代を生きるA 2	国際化と日本A 2	科学・技術・情報と社会A 2
		学修基礎科目	福大生のためのキャリアデザイン 2		アカデミックスキルズゼミⅠ 2		アカデミックスキルズゼミⅡ 2		福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか 2		
				第 1 年 次		第 2 年 次		第 3 年 次		第 4 年 次	
				授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
外 国 語 科 目	第 1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1	※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2	※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1 アドバンス・イングリッシュⅠ 1 アドバンス・イングリッシュⅡ 1							
	第 2	【ド イ ツ 語Ⅰ A 2 ド イ ツ 語Ⅰ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅰ B 2 中 国 語Ⅰ A 2 中 国 語Ⅰ B 2 ロ シ ア 語Ⅰ A 2 ロ シ ア 語Ⅰ B 2 ス ペ イ ン 語Ⅰ A 2 ス ペ イ ン 語Ⅰ B 2 朝 鮮 語Ⅰ A 2 朝 鮮 語Ⅰ B 2	ド イ ツ 語Ⅱ A 2 ド イ ツ 語Ⅱ B 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ A 2 フ ラ ン ス 語Ⅱ B 2 中 国 語Ⅱ A 2 中 国 語Ⅱ B 2 ロ シ ア 語Ⅱ A 2 ロ シ ア 語Ⅱ B 2 ス ペ イ ン 語Ⅱ A 2 ス ペ イ ン 語Ⅱ B 2 朝 鮮 語Ⅱ A 2 朝 鮮 語Ⅱ B 2								
保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1	※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1								
単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
専 門 教 育 科 目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動Ⅰ 1 ダグメン 1 フレッシュマンセミナーⅠ 1 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キャン プⅠ 1 水 泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6						
		選択必修科目	スポーツ整形外科学 2 健康運動器外科学 2								
	選 択 科 目	解剖生理学Ⅰ 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2	健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2	水 泳Ⅱ 1 運動療法・処方 2 (含むリハビリテーション) 公衆衛生学(含衛生学) 2 フィットネス実習 1 エアロビックエクササイズ 1 ○健康運動指導演習Ⅰ 2	○健康運動指導演習Ⅱ 2						
		スポーツ史 2 スポーツ方法学 2	保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発 育 発 達 老 化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	保健体育科教育法Ⅲ 2 保健体育科教育法Ⅳ 2 学 校 保 健 2 公衆衛生学(含衛生学) 2 教 職 事 前 実 習 1 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 〔学校体育経営管理学〕 2 〔保健教材演習〕 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2						
		コース推薦科目群	健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野 外 教 育 概 論 2	レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 ス ポ ー ツ 産 業 論 2 スポーツマーケティング論 2 社 会 調 査 実 習 2 野 外 教 育 ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 支 援 論 2 社 会 福 祉 論 2 アダブテッドスポーツ演習 キャンプⅡ 1							
コース共通科目群	スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1	スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団 体 指 導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サ ッ ク ー Ⅰ 1 ラ フ グ ー Ⅰ 1 柔 道 Ⅰ 1 剣 道 Ⅰ 1 キ ャ ー Ⅰ 1 ア ク ア ス ポ ー ツ Ⅰ 1	運動療法実習 1 スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学実験 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 ス ケ ー ト Ⅰ 1 ス テ ニ ー Ⅰ 1 卓 球 Ⅰ 1 〔体づくり運動Ⅱ〕 1 バ ド ミ ン ト ン Ⅰ 1 レ ス リ ン グ Ⅰ 1 ゴ ル フ Ⅰ 1 基 礎 防 災 学 Ⅱ 2 ス ポ ー ツ 行 政 論 Ⅱ 2								

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位、アドバンス・イングリッシュ2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次に選択必修科目2単位以上を修得しなければならない。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 4 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 5 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 6 各分野の推薦科目については別に定める。  
 7 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 8 [ ] 内は、今年度休講。

平成26年度入学生 (14台)

スポーツ科学部 健康運動科学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 倫理学A 2 目録学A 2 西中芸史A 2 国文術A 2	哲学B 2 倫理学B 2 目録学B 2 西中芸史B 2 国文術B 2	論理学A 2 宗東日西日 2 本洋文文学A 2 本洋文文学A 2 本洋文文学A 2 本洋文文学A 2 本洋文文学A 2 本洋文文学A 2	論理学B 2 宗東日西日 2 本洋文文学B 2 本洋文文学B 2 本洋文文学B 2 本洋文文学B 2 本洋文文学B 2 本洋文文学B 2	政治学A 2 法政商教心 2 育理学A 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2	政治学B 2 法政商教心 2 育理学A 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2 育理学B 2	憲法史A 2 日本国憲法 2 経済学B 2 社会学B 2 心理学A 2 文化人類学A 2 文化人類学A 2 文化人類学A 2	憲法史B 2 日本国憲法 2 経済学B 2 社会学B 2 心理学A 2 文化人類学A 2 文化人類学A 2 文化人類学A 2
		自然科学	数学入門 2 物理科学入門 2 地球科学入門 2 地球と環境 2 文化と教育 2	基礎数学 2 自然界と物質の化学 2 新しい地球観 2 生命・健康と医療 2 現代を生きる 2	統計入門 2 生活と環境の化学 2 自然科学入門 2 国際化と日本 2	物理学入門 2 マクロの生物科学 2 自然科学と人間 2 科学・技術・情報と社会 2	総合系列科目	地文 2 文化と教育 2	現代を生きる 2	国際化と日本 2
	学修基礎科目	福大生のためのキャリアデザイン 2		アカデミックスキルズゼミⅠ 2		アカデミックスキルズゼミⅡ 2		福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2		
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1 ※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1		※インターメディア・イングリッシュⅠ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅡ 1 海外英語研修 2		※インターメディア・イングリッシュⅢ 1 ※インターメディア・イングリッシュⅣ 1			
		第2	ドイツ語ⅠA 2 ドイツ語ⅠB 2 フランス語ⅠA 2 フランス語ⅠB 2 中国語ⅠA 2 中国語ⅠB 2 ロシア語ⅠA 2 ロシア語ⅠB 2 スペイン語ⅠA 2 スペイン語ⅠB 2 朝鮮語ⅠA 2 朝鮮語ⅠB 2	ドイツ語ⅡA 2 ドイツ語ⅡB 2 フランス語ⅡA 2 フランス語ⅡB 2 中国語ⅡA 2 中国語ⅡB 2 ロシア語ⅡA 2 ロシア語ⅡB 2 スペイン語ⅡA 2 スペイン語ⅡB 2 朝鮮語ⅡA 2 朝鮮語ⅡB 2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅱ 1		※生涯スポーツ演習Ⅲ 1 ※生涯スポーツ演習Ⅳ 1							
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	必修科目	スポーツ心理学 2 生涯スポーツ論 2 体力学 2 体づくり運動Ⅰ 1 スタジアム 1 フレッシュマンセミナーⅠ 2 フレッシュマンセミナーⅡ 2	スポーツ内科学 2 スポーツ生理学 2 レジャー・レクリエーション総論 2 スポーツ社会学 2 健康スポーツ論 2 キヤンピョウⅠ 1 水泳Ⅰ 1 ステップアップセミナー 2	健康スポーツ演習 4 スポーツ科学演習 4	卒業研究論文 6					
		選択必修科目	健康スポーツ心理学 2 解剖生理学Ⅱ 2 ウェイトトレーニング演習 2	健康スポーツ心理学 2 運動栄養学 2 身体コンディショニング論 2 スポーツバイオメカニクス 2	水泳Ⅱ 1 運動療法・処方(含むリハビリテーション) 2 公衆衛生学(含衛生学) 2 フィットネス実習 1 エアロビクエクササイズ 1 ○健康運動指導演習Ⅰ 2	○健康運動指導演習Ⅱ 2				
	選択科目	スポーツ史 2 スポーツ方法学 2	保健体育科教育法Ⅰ 2 保健体育科教育法Ⅱ 2 発育発達老化 2 スポーツ情報処理実習 2 スポーツ運動学 2	保健体育科教育法Ⅲ 2 学校保健 2 公衆衛生学(含衛生学) 2 教職事前実習 1 ○保健体育教職演習Ⅰ 2 [学校体育経営管理学] 2 [保健教材演習] 2	○保健体育教職演習Ⅱ 2					
	科目	生涯スポーツ教育 2	健康スポーツ経済学 2 健康スポーツ心理学 2 野外教育概論 2	レクリエーション演習Ⅰ 2 レクリエーション演習Ⅱ 2 スポーツ産業論 2 スポーツマーケティング論 2 社会調査実習 2 野外教育・レクリエーション支援論 2 社会福祉論 2 アダプテッドスポーツ演習 2 キヤンピョウⅡ 1						
	コース共通科目群	スポーツ哲学 2 陸上競技Ⅰ 1 器械運動Ⅰ 1	スポーツ経営管理学 2 スポーツ統計学 2 スポーツ生化学 2 スポーツ栄養学 2 団体指導 2 バスケットボールⅠ 1 バレーボールⅠ 1 ハンドボールⅠ 1 サッカーⅠ 1 柔道Ⅰ 1 柔道Ⅱ 1 剣道Ⅰ 1 キッズスポーツ 1 アクアスポーツ 1	運動療法実習 1 スポーツコミュニケーション論 2 生涯スポーツ実習 1 スポーツバイオメカニクス及び運動学実習 2 スポーツ心理学実験 2 スポーツ生理学実験 2 スケート 1 ステニ 1 卓球 1 [体づくり運動Ⅱ] 1 バドミントン 1 レスリング 1 ゴルフ 1 基礎防災学 2	スポーツ行政論 2					

(注) 1 第1外国語の海外英語研修2単位及び第2外国語を修得した場合、自由履修単位に算入する。  
 2 自由履修単位の専門教育科目は、10単位を限度として、学科を越えて履修することができる。  
 3 2年次の選択必修科目からは、2単位以上を修得しなければならない。2単位を超えて修得した単位数は選択科目の単位数に参入する。  
 4 3年次のコースは、そのコースの学生のみが履修できる。但し、健康運動指導者コースと保健体育教員コースは人数を制限することがある。  
 5 なお、○科目は当該コースの学生のみが履修できる。  
 6 生涯スポーツ教育コースには、スポーツ産業分野、野外教育・レクリエーション分野、障がい者スポーツ指導分野がある。  
 7 各分野の推薦科目については、別に定める。  
 8 単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件単位のなかに算入しない。  
 9 [ ] 内は、今年度休講。